※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１７

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「最新　数学Ⅱ」　（数研出版）						
副教材等	Study-Up ノート数学Ｃ　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、新しく学ぶ内容に対して、ひとつひとつ着実に理解していきましょう。わからないことがある場合は、どんなに小さいことであっても、そのままにせず、すぐに質問してください。問題演習の場面では、答えが書かれるのを待つのではなく自ら考え、その後周りの人と協働で考えましょう。
・問題集については、まずは自分で解き、ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自で答え合わせをしてから提出してください。答え合わせをすることで、自分がどこでつまずいたかを知ることができます。
・理解をあきらめてしまうと、力はまったくつかず、どんどん授業についていけなくなります。積極的に取り組む姿勢を維持しましょう。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2)　大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
(3)　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察したり，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察したり，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　ベクトル	第1節　平面上のベクトル 1　ベクトル 2　ベクトルの和 3　ベクトルの差 4　ベクトルの実数倍 5　ベクトルの成分 6　ベクトルの成分と演算 7　ベクトルの内積 8　内積の性質 第2節　ベクトルと平面図形 9　位置ベクトル 10　ベクトルと図形 11　ベクトル方程式 第3節　空間のベクトル 12　空間の座標 13　空間のベクトル 14　ベクトルの成分と演算 15　ベクトルの内積 16　位置ベクトル 17　空間図形への応用	a：平面上のベクトルの意味，相等，和，差，実数倍，位置ベクトル，ベクトルの成分表示について理解できている。ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解できている。座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できている。 b：実数などの演算の法則と関連付けて，ベクトルの演算法則を考察することができる。ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて，平面図形や空間図形の性質を見いだしたり，多面的に考察したりすることができる。 c：数量や図形及びそれらの関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

2学期	第2章 複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の和と差 3 複素数の極形式 4 ド･モアブルの定理 5 複素数と平面図形	a：複素数平面と複素数の極形式，複素数の実数倍，和，差，積及び商の図形的な意味を理解できている。ド・モアブルの定理について理解できている。 b：複素数平面における図形の移動などと関連付けて，複素数の演算や累乗根などの意味を考察することができる。 c：複素数平面の考えを問題解決に活用したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりしようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
	第3章 式と曲線	第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータといろいろな曲線	a：放物線，楕円，双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解できている。曲線の媒介変数表示について理解できている。極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解できている。 b：放物線，楕円，双曲線を相互に関連付けて捉え，考察することができる。 c：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして，媒介変数や極座標の考えを問題解決に活用したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりしようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

3学期	第4章 数学的な表現の工夫	1データの表現方法の工夫 1 パレート図 2 バブルチャート 2 行列による表現 1 行列 2 行列の和と差 3 行列の実数倍 4 行列の積 3 離散グラフによる表現 1 一筆書き 2 最短経路の問題 4 離散グラフと行列の関連 1 離散グラフの隣接行列 2 経路の数え上げ	a：日常の事象や社会の事象などを，図，表，統計グラフなどを用いて工夫して表現することの意義を理解できている。日常の事象や社会の事象などを，離散グラフや行列を用いて工夫して表現することの意義を理解できている。 b：図，表，統計グラフ，離散グラフ及び行列などを用いて，日常の事象や社会の事象などを数学的に表現し，考察することができる。 c：解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度